

## 1 学校評価の目的

今年度の教育活動その他の学校運営の状況について「児童生徒」、「保護者」、「職員」による評価を行ない、結果に基づく本校の更なる教育水準の向上、学校運営の改善を図るために必要な具体的な方法を検討するためにアンケート調査を行った。

## 2 実施状況

- (1) 令和2年度学校評価運営委員による質問項目の検討
- (2) アンケートの実施（\*職員には「働き方改革」に関わる内容を含む）
- (3) アンケートの回収
- (4) 結果の整理
- (5) 分析

## 3 アンケート結果

### (1) 児童生徒

一番重要視しなければならない児童生徒の回答は言語表出・文字表記が可能な児童生徒に限られることから、全容を捉えることの限界を加味し、少人数の意見でもその意見を共有し、対応を検討する。

ア 回収の状況 児童生徒 141 名中 56 名の回収（回収率 40%）

#### イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目に対して「はい」「いいえ」「どちらともいえない」で回答、集計している。

#### ウ アンケートの概要

##### (ア) 児童生徒アンケート

共通項目として学校生活に関する7項目、対象生徒のみの寄宿舎生活に関する2項目について3件法により、また、学校生活および寄宿舎生活について自由記述による2項目のアンケートを実施した。

共通項目7項目の肯定評価（はい）が否定評価（いいえ）を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

##### (イ) 共通7項目（学校生活に関する項目）について

###### ① 肯定評価：90%以上→7項目中2項目

80%台 →7項目中4項目      70%台 →7項目中1項目

###### ② 肯定評価割合が上位なもの

###### 学校生活に関する項目

・Q6 『先生は、地震や火事が起きたときに、安全に身を守る方法を教えてくださいか』

肯定評価 96%      否定評価 0%      どちらともいえない 4%

・Q1 『あなたは、学校で学習することが楽しいですか』

肯定評価 93%      否定評価 2%      どちらともいえない 5%

###### \*寄宿舎生活に関する項目

・Q9 「あなたは、寄宿舎で安心して生活ができていますか」

肯定評価 100%      否定評価 0%      どちらともいえない 0%

・Q10 『寄宿舎の先生に気軽に話したり、相談したりできますか』

肯定評価 100%      否定評価 0%      どちらともいえない 0%

- ③ 肯定評価割合が下位なもの  
 学校生活に関する項目
- ・Q7 『あなたは、他の学校との交流及び共同学習が楽しいですか』  
 肯定評価 73% 否定評価 2% どちらともいえない 25%
  - ・Q2 『あなたは、先生に何でも話し、相談することができますか』  
 肯定評価 82% 否定評価 4% どちらともいえない 14%
- ④ 学校で楽しかったこと・頑張ったこと

<p>&lt;小学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語 ・算数 ・体育 ・漢字の勉強 ・音読 ・図形の書き方 ・歩くこと</li> <li>・お金の勉強 ・自分の係と生活科で育てた植物の世話 ・トイレを成功すること</li> <li>・あいさつ、返事 ・自己導尿をすること ・車椅子の腰のベルトを締めること</li> <li>・おにごっこ ・クリスマス会 ・ご飯をもぐもぐ食べることを食べる</li> <li>・けやき祭 ・けやき祭で自分の気持ちを見ている人に伝えること</li> </ul>
<p>&lt;中学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の勉強 ・国語 ・数学 ・英語 ・作業 ・学級生単 ・体育のボッチャ</li> <li>・自立活動（ビーズ通し、ストレッチ、視線入力） ・執行部の仕事</li> <li>・けやき祭 ・販売会</li> </ul>
<p>&lt;高等部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業 ・国語 ・作業 ・実習 ・執行部の仕事 ・プール ・テスト勉強</li> <li>・スロープの上り下り ・新しい環境に慣れること 陸上の大会や練習</li> </ul>

(2) 保護者

ア 回収の状況 保護者 139 名中 106 名の回収（回収率 76%）

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目ごとに、下記の A～E の各評価の人数を割合として算出する。

A：非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B：まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C：少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D：大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

E：判断できない。

\* 考察の方法として特に、肯定評価（A+B）〔%〕が否定評価（C+D）〔%〕を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

(ア) 保護者アンケート

共通項目として学校運営、教育活動に関する 12 項目、加えて寄宿舎生活に関する 3 項目を加えた全 15 項目について、5 件法によるアンケートを実施した。また、C、D、E 評価については、評価理由の自由記述を加えた。

共通項目 12 項目の肯定評価（はい）が否定評価（いいえ）を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 質問全項目 15 項目（うち寄宿舎生活に関して 3 項目）

① 肯定評価：90%以上→15 項目中 12 項目

80%台 →15 項目中 2 項目 70%台→15 項目中 1 項目

② 肯定評価割合が上位なもの

・Q11 『学校からのお知らせや学級通信等の情報提供は分かりやすいものになっていますか』

肯定評価 99% 否定評価 0% 判断できない 1%

- ・Q8『担任は、ご家庭と十分に連携を図っていますか』  
肯定評価 98% 否定評価 2% 判断できない 0%
- ・Q6『学校の行事は、お子さんにとっての充実したものとなっていますか』  
肯定評価 95% 否定評価 4% 判断できない 1%
- ・Q10『学校は、お子さんの将来や進路の実現に向けて、必要な情報提供をしていますか』  
肯定評価 95% 否定評価 2% 判断できない 3%

③ 肯定評価割合が下位なもの

- ・Q11『ホームページの内容は充実したものになっていますか』  
肯定評価 72% 否定評価 10% 判断できない 18%
- ・Q1『学校は、お子さんにとって、安全・安心な環境になっていますか』  
肯定評価 89% 否定評価 2% 判断できない 5%
- ・Q7『担任は、学校での学習内容や学習活動を適切に説明していますか』  
肯定評価 89% 否定評価 1% 判断できない 0%

(3) 職員

ア 回収の状況 職員 168 名中 148 名の回収 (回収率 88%)

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目ごとに、下記のA～Dの各評価及び無回答の人数を割合として算出する。

A：非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B：まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C：少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D：大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

\*考察の方法として特に、肯定評価(A+B) [%] が否定評価(C+D) [%] を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

(ア) 教職員アンケート

共通項目として学校運営、教育活動、研修に関する14項目、加えて働き方改革に関する6項目を加えた全20項目について、4件法によるアンケートを実施した。また、C、D評価については、評価理由の自由記述を加えた。なお、職種により、回答が難しい項目については無回答を認めることとしている。

学校運営等に関する14項目の肯定評価(はい)が否定評価(いいえ)を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 学校運営等に関する14項目について

① 肯定評価：90%以上→10項目

80%台 →2項目 70%台→2項目

肯定評価が否定評価を下回ったもの→なし

② 肯定評価割合が上位なもの

- ・Q1『私は、学校経営計画・重点項目に沿って教育活動(学校業務)を行っている』

肯定評価 100% 否定評価 0% 無回答 0%

- ・Q2『学校は、安全な教育環境を整え、必要な健康教育の充実を図っている』

肯定評価 99% 否定評価 1% 無回答 0%

- ・Q5『私は何かあった時に、「チーム学校」の考えで、問題を一人で抱え込まないよう「報告・連絡・相談」に努めている。』

肯定評価 98% 否定評価 2% 無回答 0%

③ 肯定評価割合が下位なもの

- ・Q8『私は、授業等において、AT・ICT教材を個々の児童生徒の実態に応じ工夫し、活

用している』

肯定評価 78% 否定評価 12% 無回答 20%

- ・Q9『交流及び共同学習は、児童生徒にとって有意義な学習活動になっている。』  
肯定評価 78% 否定評価 5% 無回答 17%

- ・Q10『私は、キャリア発達の視点で個々の児童生徒の実態やニーズに応じた進路支援を行っている』  
肯定評価 81% 否定評価 1% 無回答 17%

#### 4 考察

##### (1) 肯定評価と否定評価の割合（共通項目総計）

	回収率	肯定評価	否定評価	分からない 無回答	評価割合
児童生徒	40%	86%	2%	12%	肯定評価>否定評価
保護者	76%	92%	3%	5%	肯定評価>否定評価
職員	88%	91%	2%	7%	肯定評価>否定評価

児童生徒、保護者、職員ともに肯定評価が否定評価を高い割合で上回った。

##### (2) 各評価における分析

###### ア 児童生徒

- ・回収されたアンケート結果のうち、Q1『あなたは、学校で学習することが楽しいですか』の肯定評価割合からは、児童生徒の多くが学校での学習に充実感を感じている状況が把握される。
- ・Q7『あなたは、他の学校との交流及び共同学習が楽しいですか』については、「どちらともいえない」との回答が多く見られた。コロナ禍で今年度の交流及び共同学習が実施できなかったり、交流形態が間接交流になったりしたことで、活動の実感が得られにくかったことによるものと考えられる。
- ・Q2『あなたは、先生に何でも話し、相談できますか』については、「どちらともいえない」との回答が14%の割合で示されている。回答対象を踏まえると、思春期にある生徒たちの相談支援を考える上で重要な点であると考えられる。
- ・小学部の結果の中では「頑張ったこと」の質問に対し、教科等の学習、基本的な生活習慣、行事、係活動等が挙げられた。「歩くこと」、「トイレを成功すること」など自らの目標に対する取組について、達成感を感じている様子が表現されている。
- ・中学部、高等部では「頑張ったこと」の質問に対し、教科等の学習、作業、現場実習等が挙げられた。また、「陸上の大会や練習」のように対外的な目標に対する取組についての記述も見られている。
- ・対象生徒のみによる寄宿舎生活に関する質問項目からは、100%の肯定評価が得られている。また、寄宿舎生活の中でできるようになったことの自由記述では、「洗濯」、「布団敷き」、「身の回りのことができるようになった」などが示されている。寄宿舎生活を通して、様々な生活スキルを身に付けられたことの実感、充実感が得られている状況が把握される。

###### イ 保護者

- ・回収されたアンケート結果のうち、Q11『学校からのお知らせや学級通信等の情報提供は分かりやすいものになっていますか』の肯定評価割合は99%となっており、前年度（94%）同様に高い割合を示している。一方で、Q11『ホームページの内容は充実したものになっていますか』の肯定評価は72%にとどまっている。記述意見の中には、見る機会が少ないこと他、内容更新の頻度に関する意見も見られた。今年度については、コロナ禍において、行事の中止等による学習活動紹介の機会が少なかったことも要因として考えられる。今後、ホームページからの情報発信の充実を図っていくことが必要であると考えられる。
- ・すぐメールや災害伝言ダイヤル訓練の有効性については、91%の肯定評価割合が示されているものの、自由記述において、実際的な利用に当たっての手順がより簡略なものであることを求める意見も見られた。

- ・学校行事についての充実度に関する項目では、95%の肯定評価割合が得られたが、自由記述において、コロナ禍での行事中止について残念であった旨を示す意見が複数見られた。学校としての安全・安心を確保しながら、学びの機会として行事のあり方をさらに検討していく必要がある。
- ・学校教育改善に関する意見としては、本アンケートに関わり、否定評価の理由についての自由記述を求めるだけでなく、肯定評価の理由についても把握してみる必要を教示いただく意見が見られた。改善点のみならず、良さ、強みも把握しながら学校運営につなげているように、今後のアンケート内容を整理していくこととする。
- ・職員のコンプライアンスにかかわる意見も見受けられ、今後も学校職員全体でのコンプライアンス遵守に向けた取組をさらに進めていきたい。

#### ウ 職員

- ・学校教育計画・重点目標に沿った教育活動の状況については、肯定評価が100%であった。様々な職種が含まれる中、本校が目指す方向性を意識し、それぞれ業務に当たっている状況が把握されている。
- ・A T ・ I C T教材の活用については、肯定評価が78%にとどまっている。職種により、直接的に学習指導に関わらない職員については、無回答の割合として20%を示している。自由記述においては、効果的な活用という点から、さらにA T ・ I C T教材についての理解、実践を重ねていく必要性を感じている状況が把握されている。今後も校内研修会を通じて、A T ・ I C T教材活用の実践力を高めていく必要があると考える。
- ・交流及び共同学習についても、肯定評価が78%（前年度93%）にとどまった。自由記述としてコロナ禍で直接交流の機会がもちにくかったことなどが挙げられた。オンラインでの交流等も含め、間接交流のあり方についても模索をしていくとともに、交流及び共同学習のねらいを改めて交流先との間で確認しながら、ねらいの達成につながる具体的活動について検討していく必要がある。